

2002年9月例会レジュメ

9 - 1 秋好 忍 (機械) 鋳物工場の製品冷却装置変遷

鋳鉄鋳物は、素形材系産業の1つに位置づけられている。現在では、従業員の高齢化、海外への生産シフト、軽合金材への材質転換などによる転業廃業が多く、全国の事業所数は激減の一途である。(平成元年約1300工場 平成14年約900工場) 鋳鉄鋳物の生産工程の中で、特に過酷な鋳型の解砕工程、製品冷却工程にスポットを当て、冷却設備の変遷、ドラムクーラーの構造と特徴について述べられた。従来、鋳物製品の冷却は、ハンマーリング後の放冷、シェークアウトマシンとエプロンコンベアの組合せによる冷却方法が主流であったが、近年では、ドラムクーラーの性能向上により、導入が見直されている。ドラムクーラーは、以下の特徴を有する。1)鋳物と砂が冷却される。2)鋳物の砂付きが少い。3)騒音が小さい。4)粉塵処理が容易。一方、製品割れ、製品冷却不足等の問題があった。しかし、ドラム内部の構造を変更し、解決してきたと写真を用いて詳細に説明された。質問に対して、日本の将来の活路は、高技術を要する精密鋳造、大型鋳造分野にあると話された。

9 - 2 伊藤 正樹 (機械) 大田区機械金属工業生き残り戦略

基盤的産業の集積により、これまで日本のモノづくりを支えてきた大田区機械金属工業は、中国の台頭、IT不況、異常な金融状態から非常な苦境にある。講演者は1年4ヶ月の相談員として多くの中小企業とかかわり、現在の状況における企業の成功と失敗の事例を精査して、生き残りのための方策を提案されてきた。(1)「モノづくり」そのもの(生産技術)の革新と「人」の技能の更なる向上、及びこれらのネットワークによる工程補間(2)革新技術をベースとして新しい市場やニッチをねらい、大学の知恵を借り、異業種グループや仲間内の叢智を結集し、又大手顧客との一体になっての新製品開発(3)最適生産基地選定、間接費零工場、定年廃止や生産技術への経営資源重点投入など経営のやり方の革新。などである。「人が最大の財産」である中小企業は、「従業員のやる気創造」と「若手を入れて育てる」ための数々の施策が「生き残り」に最も大切とした。中小企業の長所を生かし、即断即決、小回りの利く身軽さ、早い意思決定が昨今経済情勢下では経営に一層必要と述べられた。

(宇津山 俊二 記)